

製品名: SMURF2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM86093**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:4000
分子量	86.2kDa

抗原情報

遺伝子名	SMURF2
別名	E3 ubiquitin-protein ligase SMURF2, hSMURF2, 6.3.2.-, SMAD ubiquitination regulatory factor 2, SMAD-specific E3 ubiquitin-protein ligase 2, SMURF2
遺伝子 ID	64750.0
SwissProt ID	Q9HAU4
免疫原	この SMURF2 抗体は、ヒト SMURF2 の組み換えタンパク質で免疫化されたマウスから生成されます。

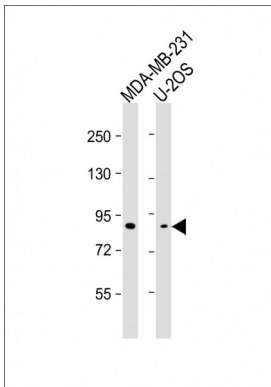
背景

E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、その後、標的基質に直接ユビキチンを転移します。SMAD1 および SMAD7 と相互作用し、それらのユビキチン化およびプロテアソーム依存性分解を誘導します。さらに、SMAD7 との相互作用は自己触媒分解を活性化しますが、これは SCYE1 との相互作用によって阻害されます。TGF- β 受容体を介したリン酸化 SMAD2 および SMAD3 と安定な複合体を形成します。このようにして、SMAD2 は SNON などの基質をユビキチン介在分解にリクルートする可能性があります。SMAD7 の阻害活性を増強し、SMAD2 の転写活性を低下させます。SMURF2 と SMAD1 の共発現は、SMAD1 タンパク質の定常状態レベルを大幅に低下させ、SMAD2 レベルの減少をわずかに抑えます。

研究分野

-

画像データ



全レーン：抗 SMURF2 抗体 (1:2000 ~ 1:4000 希釈)